

我が署における安全活動 —短時間ミーティング・指差唱和—

飯山・庶務課厚生係 ○高山 茂
滝沢 正幸
宮下 美枝子
野沢担当区事務所 斉藤 福二

要 旨

当署においても、指差呼称の導入を試みてきたが、照れ、恥じらい、抵抗等もあって定着できなかったため、全員が実施可能である「短時間ミーティング・指差唱和」に切り替え実施したことにより、一部の担当区では、すっかり定着し、他の担当区・事業所へも次第に広まってきている。今後は、この活動を全現場に定着させるよう活発な取組みを行い、労働災害の発生防止に努めたい。

はじめに

指差呼称・指差確認は、自分の作業行動を自ら点検し、作業に対する緊張と正確さを求める手法として災害の防止に極めて効果があるとされている。

我が署においても、造林の作業を中心に指差呼称の導入を試み実行してきたが、幾つかの理由や抵抗もあったため、全員が実施可能な「短時間ミーティング・指差唱和」に切替え、この手法を現場安全活動の基本に据え、あらゆる機会を通じて普及と指導に努めており、この活動を全現場に定着させ、労働災害の発生防止を図りたい。

1 実施経過

「安全活動はマンネリ化している」「安全には特効薬なし」ということを耳にするなかで、「生き生き安全」をキャッチフレーズにした指差呼称（指差確認）の導入を図るため、昭和59年度安全担当者会議において討論した結果、造林の作業を中心に、呼称項目を、①刃覆いよし ②位置よし ③安定よし ④方向よし、の四つに絞り、これを基本項目と定め、各現場それぞれ工夫をこらし一斉に実施することを決めた。

その後は、安全点検、安全指導等を通じ、指導を繰り返して行ってきたが、照れ、恥じらい、抵抗もあって、声が小さかったり動作も確実に行われず大きな壁に突き当たってしまったところである。

そこで、60年度は、「出来ない理由や原因」に反省と検討を加えるなかで、「指差呼称をやりやすくするための前段手法に良いものはないか」と考えていたところ、中央労働災害防止協会が提唱している、「短時間ミーティング・SS訓練」（即時・即刻＝SS）の手法があることに気づき、この手法からヒントを得て、我々の職場に合うように改良を加え作りあげたのが、「短時間ミーティング・指差唱和基本例（指差唱和＝SS）」表一である。

表-1 短時間ミーティング・指差唱和（基本例）

（午後の作業開始時は、簡略に）

| | | |
|---|--|---|
| <p>1. 鑑別・号令（安全当番） 鑑別（旗一列又は円陣） 番号（1-----6） お早うございます。 ただいまからミーティングを行います。</p> | <p>5. ゼロ災 1, 2, 3, 4 目標唱和 （安全当番） 安全旗に向かって、「ゼロ災一の目標を唱和します」 「カマの取扱いに注意しよう。 ヨシ！」 【全員】 『カマの取扱いに注意しよう。 ヨシ！』</p> | <p>8. 作業指示 （班長・主任） —— 内容省略 ——</p> |
| <p>2. 一斉挨拶（全員） 「災害を絶滅しよう ヨシ！」</p> | <p>6. 安全当番報告 「昨日、作業地を点検したところ、野沢歩道に転石があるので、移動には十分注意して下さい」 【全員】 ヨシ！</p> | <p>9. 今日の作業の危険のポイント確認 （安全当番） 「今日の作業の危険のポイントは、移動時の歩道の状態」 指差呼称訓練は「歩道 ヨシ！」 全員で指差呼称する</p> |
| <p>3. 健康確認（安全当番） —— 体調点呼 —— 「滝沢さん、昨日は風邪を引いたと言ってましたが、どうですか」 【滝沢】 「昨晚早く休んだらすっかりよくなりました」</p> | <p>7. 30秒スピーチ（安全推進員） 「今日から安全週間に入りました」 昨日、宮下さんが、「ついうっかりして、枯木につまずき転倒してし、まいりました」要所要所で必ず指差呼称して下さい。</p> | <p>10. まとめ確認（安全当番） タッチアンドコール 「災害を絶滅しよう ヨシ！」</p> |

そして、5月の安全担当者会議に踏ったところ、①全員が一堂に参加でき、規律ある行動がとれる。②従来から実施しているツールボックスミーティングよりも、短時間で効果的である。③事前の訓練により、大きな声も出やすく、指差呼称もやりやすい。などの賛成意見が多く出されたので、「基本例」を参考に、それぞれの現場に見合ったものにして実行していくことを決めたところである。

それ以来3年間、一貫して方針を変えず、安全点検・安全指導等を通じ、また、安全担当者会議においても、繰り返し指導・チェックを行ってきた結果、野沢担当区においてはすっかり定着し、他の担当区・事業所へも次第に広まってきている。

II 実 演

それでは、「短時間ミーティング・指差唱和基本例」について簡単に説明を行い、引き続き実演に移るが、定着している野沢担当区の定期作業員は、現在、下山中であり、また、基幹作業職員もスキー場の受託事業に従事しているので、定員内職員の応援により実施する。

なお、リーダーは、基幹作業職員・斉藤福二が当たる。

III 成 果

1. 災害の発生が少なくなった。表-2のとおりである。
2. 職場のまとまりが良くなった。
3. 大きな声が自然に出るようになり、指差呼称もやりやすくなった。
4. 安全及び健康管理に対する認識が高まった。

お わ り に

従来から実施してきた安全活動に、新たなものを導入することは大変なことだということを身をもって体験してきたが、安全対策を担当する者の一人として、この手法が全現場に定着し、活力ある安全活動が行われることにより災害の無い職場が生まれることと確信する。

表-2 災害発生状況（10年間）

| 警 全 体 | | | 野沢担当区（委託を除く） | | |
|-------|-----|-----------|--------------|----|------|
| 年度 | 件 数 | 摘 要 | 年度 | 件数 | 摘 要 |
| 54 | 4 | | 54 | 0 | |
| 55 | 4 | | 55 | 0 | |
| 56 | 8 | | 56 | 4 | 康 転落 |
| 57 | 2 | | 57 | 0 | |
| 58 | 2 | | 58 | 1 | |
| 59 | 0 | 指差呼称導入 | 59 | 0 | |
| 60 | 1 | 指差唱和に切り替え | 60 | 0 | |
| 61 | 0 | | 61 | 0 | |
| 62 | 2 | 受託事業1件含む | 62 | 0 | |
| 63 | 2 | | 63 | 0 | |